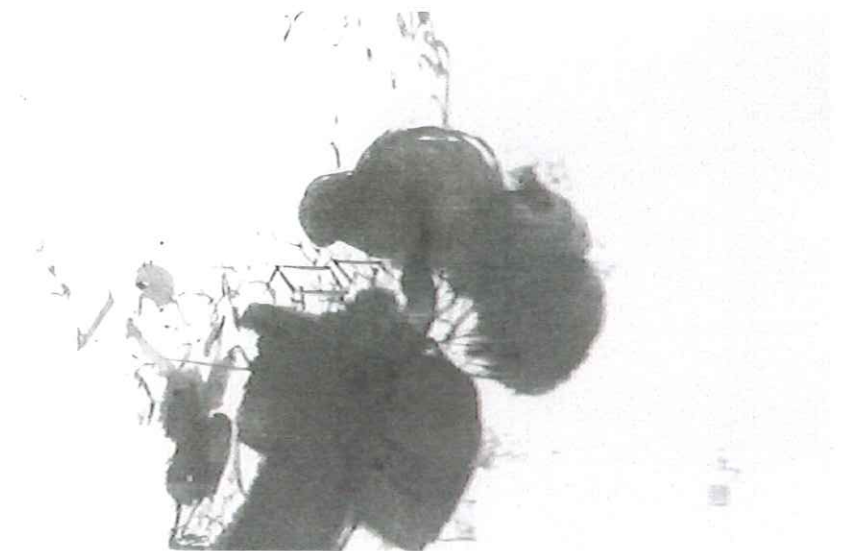


# リハビリテーション

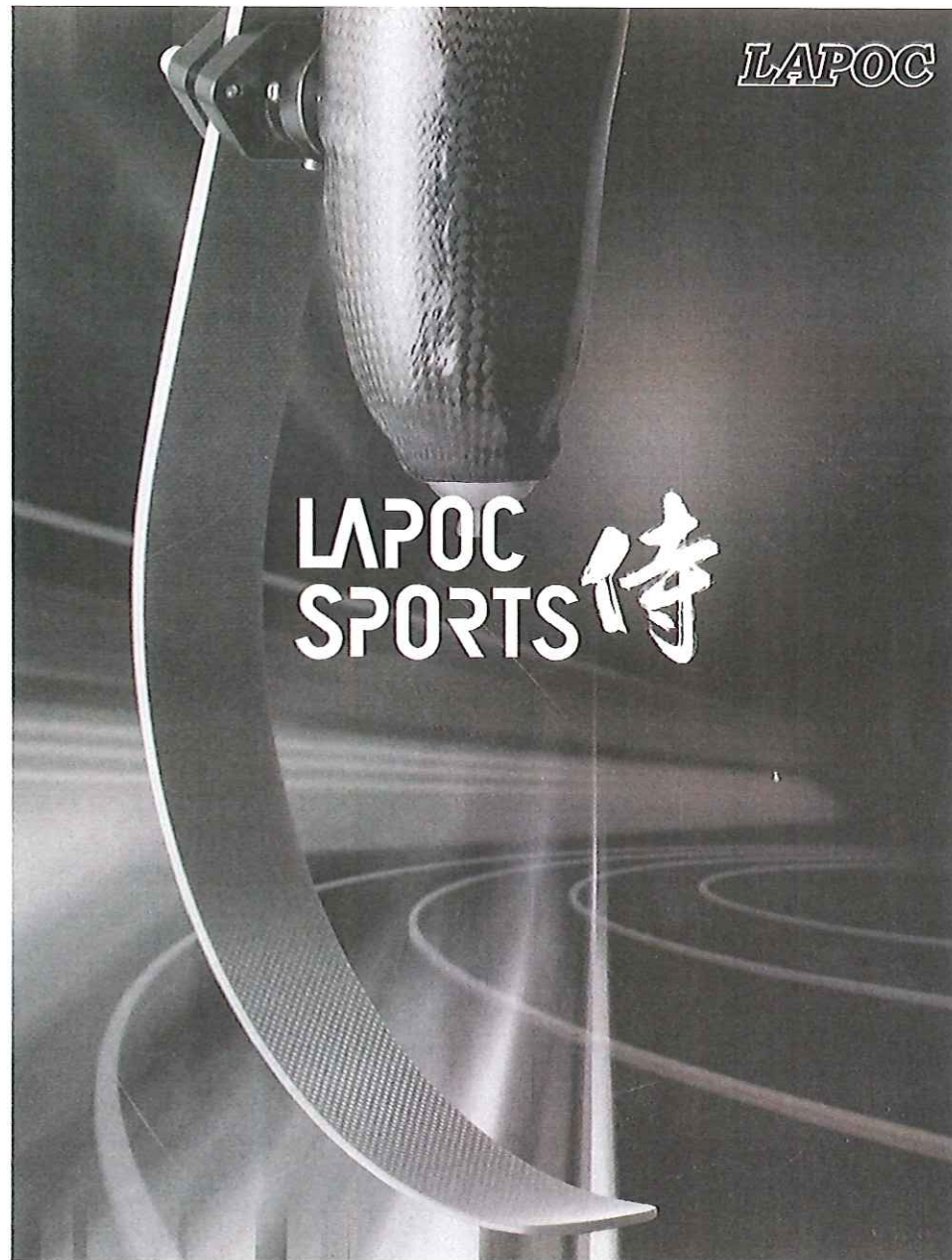
特集・障害者の健康管理②



2010 07

NO. 52

昭和四十年二月五日第三種郵便物認可 リハビリテーション 七月号 (通巻第五二五号) 平成二十二年七月一日発行 (毎月一回発行)



株式会社 宇仙技術研究所

本社 / 〒494-0083 愛知県犬山市大字犬山字東古券419番地  
電話 (0568) 62-8221 FAX (0568) 61-3752

### ボランティア活動と商い

平野雄司

若い人に「情けは人の為ならず」と言ったところ、その意味を「人に親切にしても決して為にならない」と解釈されて答えに窮したという話を聞いた。

福祉活動の多くは、奉仕の気持ちを強く持たないと相手の方にはもちろん、自分自身に対しても悲しい結果に終わってしまう。その一方で、奉仕の気持ちばかりでは、活動そのものが長続きしないと承知している。そうした考えに立つと、実際にボランティア活動と収入の道を両立させている例を紹介、商いを心掛けることは、決して善意を

傷つけるものでないと訴える必要があると思う。そこでお節介にも、その善意の「探し屋役」になることにした。

男性コーラスのボニージャックスは、長年、身障者との交流を続けている。全国の障害者施設を訪ねて闘病者の詩を集め、それにメロディーをつけては、コンサートの中で歌っている。先日、NHKラジオで一部始終を聞いて、これは福祉活動で大事なことを教えているなと思った。

はじめにレコード会社へ「身障者の歌を商品化したい」と申し入れたが断られた。会社の担当者にすれば、そうした人たちの作品を商いに使うことを憚る気持ちが働いたに違いない。それに加えてヒット率は極めて少ないという、プロとしての率直な判断があっただろう。

ボニージャックスは、作詞者、作曲

者、レコード会社が多少の稼ぎを見込めなければ、この種の仕事は決して長続きしないことを強調、粘り強く交渉を重ねた。その一方で、自ら障害者施設を回り、障害者だからこそ作れる心を揺さぶるような詩を探し出し、作曲の心得のある友人、知人にも協力を呼びかけながらコンサートで歌い続けた。もう二、三十年前から続けているそうだから、腰を据えた活動だ。

詩の内容として一例を挙げた。

「眼の不自由な子の、空飛ぶウサギの詩は、自分は長い間ウサギは空を飛ぶものと少しも疑ってみなかったというものです。それを他人に笑われた時、触ったウサギには確かに羽はなかった。でもいいじゃない。私は今でもウサギと空を飛んでいるのだからという内容です。ウサギの教え方は鳥と同じの一羽、二羽。そう考えれば作詞者の自由な発想の中に輝きを見つけることがで

き、メンバーが曲をつけました」

気持ちを描えたボニージャックスのコーラスを聞いていて、私も一緒になつて空を飛んでいた。

こうした行為はファンを共鳴させないわけがない。コンサート終演後のCD販売に列ができ、作詞者を含めて作曲家、レコード会社の三方の収入の道に繋がった。さらに「車椅子のおしやべり」シリーズを販売するところまで発展したという。とかく福祉活動はきれいごとで済まされ易いが、現実直視の人間の知恵と熱意をうかがわせる話だと思った。

電車の車内で一組の車椅子客を見かけた。年離れた女性に二十歳後半と思える若い男性が付き添っていた。二人の会話が聞くとはなしに耳に入った。どうやら親子ではないようだ。「ほんと、今日は楽しかったわ。あな

たの案内が無ければ家にじつとしてるだけ。これからもお願いね」

「はい。いつでもどうぞ。お役に立って嬉しいです」

青年はハキハキと答えていた。

数日後、その時のことを承知する情報を得た。

働きながら将来のためにも介護資格を取っておこうと考えた人から、その手順を相談された。偶々、内閣府認証NPO法人日本トラベルヘルパー協会（本部、東京渋谷）の名前だけは知っていた。トラベルヘルパーなら、少しは関連するだろうと、早速、訪ねた。的外れではなかった。

トラベルヘルパーは、日本語にする。と、外出支援専門員。篠塚恭一理事長は「旅の知識と介護技術を身に付けた専門家が話し相手や入浴介助を含めた外出プランを提供、身体が不自由で

も外出を楽しめるようにしています」と説明した。車椅子の用意もある。狭い職場には若い男女が忙しく動いていた。柱の下に福の文字を書いた団扇が逆さ文字の状態で掛けられていた。「中国の教で幸運が降りてくる」という言い伝えがあります」。電車内で出会った一組は、この人たちの善意の活動の一例だったのかもしれない。

当然、それなりの費用は掛る。しかし、そのサービスの背景に少しも濁りを感じないのはなぜか。肉親の間でも介護問題は容易なことではない。高齢者の独り暮らしが目立つ昨今、閉じこもりと孤食からの解放は、全ての人の共通の願いになっている。

ところで冒頭の「情けは人の為ならず」だが、四、五十歳代の人にも「他所の人へ親切にしても、なんの役にも立たないこと」と解釈、それを疑うことなく過ごしてきた人が意外に多かつ